

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 7 月 30 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/30 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	28.7	4.1 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.3 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h	37.0	6.51 kPa g	A系： 0.04 Vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.3 m <sup>3</sup> /h	34.9	0.23 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04 Vol%

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/30 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	30.0
2号機	循環冷却システム	運転中	26.8
3号機	循環冷却システム	運転中	26.5
4号機	循環冷却システム	運転中	26.4

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	7/22 9:50 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	6/16 14:42 ~ 移送実施中

・4号機使用済燃料プールから共用プールへの燃料移動作業において発生する構内用輸送容器(キャスク)内包水(4号機使用済燃料プール水)および構内用輸送容器(キャスク)内洗浄水については、沈降分離処理し、共用プール低電導度廃液受タンクで貯水しているが、H26/7/30 10:27~12:50 にかけて共用プール低電導度廃液受タンクから集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)への移送を実施。

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (7/30 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中 <sup>*1</sup>	運転中 <sup>*1</sup>	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 <sup>*2</sup>

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

## < 5. その他 >

- ・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
  - 4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
  - 4/28 ~ 4/26に全17本の凍結管の挿入作業、そのうち13本のパッカー設置作業が終了したことから、凍結管全17本の凍結運転を開始。今後、凍結の壁を造成していく予定であり、凍結状況については、測温管にて確認していく。
  - 7/28 ~ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。ドライアイスについては、状況を見極めたうえで投入を判断する予定。
- ・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- ・H26/6/2 ~ 凍土遮水壁工事を開始。
- ・H26/7/6 11:10頃 5号機補機冷却海水系配管の弁付近より海水が漏れいしていることを、パトロール中の当社社員が発見。その後、漏れい状況を確認したところ、補機冷却海水系出口配管に設置してある流量調整用の弁本体に、直径約3mmの孔が1箇所開いていることを確認。  
当該弁は、H23/1月(第24回定期検査時)以降、弁の開度が30% 1の絞り状態で運転をしていた。このため、弁内部で流速が上がり、その水流が弁内部に激しく衝突したことでゴムライニングが損傷し、母材が侵食(腐食)し、貫通穴(3mmの孔)に至ったものと推定。また、数値流体力学(CFD)による流れ解析を行った結果、当該弁の損傷箇所は、流速及び流線が大きく変化していることを確認。当該弁については、同じ仕様の弁(福島第二原子力発電所3号機の補機冷却海水系の弁)を流用し、点検手入れを行った後に取替を実施。また、当該弁上流側の流量調整弁(V-37-91A)についても一部にライニングの剥離箇所があったため当該箇所の補修を行い復旧。当該弁及びV-37-91Aについては、今回の事象を踏まえ、点検方式の見直しを行い、定期的に分解点検を実施予定。また、ゴムライニングの補修を実施したV-37-91Aについては、新弁への取替を計画する。
  - 1 定期検査時等における短期間時の運用開度。プラント通常運転中は40%開度
  - 2 開度30%時の流速は、開度40%時の約1.7倍と評価
- H26/7/30 出口配管の流量調整弁の復旧が終了したことから、10:42に補機冷却海水系を起動。12:14に補機冷却海水系の運転状態に異常が無いこと及び弁の漏れいが無いことを確認。また、14:30に燃料プール冷却浄化系を起動し、燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの冷却を再開。なお、燃料プール冷却浄化系による冷却再開時の使用済燃料プール水温度は27.6。
- ・H26/7/29 13:15頃 設備パトロールを実施していた当社社員が警報付ポケット線量計(APD)を装着していなかったことがわかった。なお、ガラスバッジは装着しており、個人線量の測定への影響はないと考えている。その後、富岡労働基準監督署より交付された労働安全衛生法違反 1としての是正勧告書を受領。なお、当該作業員の被ばく線量は、同作業に従事した他の作業員の被ばく線量が0.14mSv(APD値)であることから同等程度と考えている。
  - 1 労働安全衛生法第22条第2号(電離放射線障害防止規則 第9条第1項)  
1日における外部被ばくによる線量が1センチメートル線量当量について1ミリシーベルトを超えるおそれのある労働者については、電離則第8条第1項の規定による外部被ばくによる線量の測定の結果を毎日確認していないこと。

### **【地下水バイパス揚水井の状況】**

- ・地下水バイパス揚水井 No.1~12のサンプリングを継続実施中。

### **【H4、H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】**

#### < H4エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### < 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### < H6エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

### **【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】**

#### < 地下水観測孔サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

### **【地下貯水槽からの漏れいに関する情報および作業実績】**

#### < 地下貯水槽サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。